

第 2 7 回総務経済常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 3 年 4 月 1 6 日 (金曜)		午前 1 1 時 4 5 分 開会	
	休憩			
			午後 0 時 0 8 分 閉会	
	休憩時間： 0 時間 0 0 分		会議時間： 0 時間 2 3 分	
会議場所	役場 3 階 本会議場			
出席委員 氏 名	委員長	正村紀美子	委 員	中村 和宏
	副委員長	鈴木 健充	委 員	柴田 正博
	委 員	黒田 栄継	委 員	西尾 一則
	委 員	堀切 忠	議 長 早苗 豊	
説明員				
参考人				
欠 席 委 員 氏 名				
事務局職員	事務局長 安田 敦史		係長 佐藤 史彦	
<p>『会議に付した事件と会議結果など』</p> <p>1 開 会 委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。</p> <p>2 議 件 (1) 調査事項 ア 令和 2 年度総務経済常任委員会の抽出事業について 委員長：前回委員会で協議した内容を基に修正したもの。ご意見をいただきたい。 西尾委員：今日の本会議で担当課から説明があったが、ハローワークは無料職業紹介所としてはどうか。 委員長：正副、事務局で適切な表現にしていく。 委員長：A 目標達成、完了でよいか。 (異議なし) 委員長：決定として議運に提出する。 委員長：以上で調査事項「ア 令和 2 年度総務経済常任委員会の抽出事業について」を終わります。</p> <p>イ 3 月定例会議の振り返りについて</p>				

委員長：皆さんからの振り返りを基に集約したもの。説明やご意見をいただきたい。

黒田委員：機構改革があり、ふるさと納税など力を入れていく意思が感じられる。これからであり、継続した調査が必要と考えられる。

委員長：今後どのように扱うべきか。

柴田委員：委員会構成が変わる。この取り組みは次の委員会でも議論は必要と考える。今期の総括の意見として引き継いでもらおうと良いのではないか。

委員長：次期の委員会に引き継ぐとまとめる。

黒田委員：スノーポールの件は大切な部分であるが、対応されるため追跡調査の必要はない。また、実務能力の研修についても追跡調査までの必要はないと考えている。

委員長：スノーポールの件は予算化されており、追跡調査ではなく、各委員が確認していくことでまとめる。法令順守など自治体職員には義務でもあり、人材育成基本方針に基づいた研修も実施されているため、何か問題があれば各委員の質問の中で解決していくとまとめる。

鈴木委員：第5期総合計画では2026年度までのまちづくりの基本的な考えが示されている。新型コロナウイルス感染症が収まらない状況、影響を考慮すると、大変な時代背景となる。ウィズコロナを考えると、シティプロモーションは労働問題、移住定住、総合戦略などにも広くかかわる重要な事業であり、追跡調査が必要ではないか。

柴田委員：個人の見方と委員会の見方がある。総合計画が柱であり、コロナの中で各常任委員会の所管に関わらず、この柱をどう描いていくか。住民サービスをどう守っていくかも今後の課題。行政としては既存事業を削りにくいため、議会から押す力も非常に大きい。敵対する議会と職員、理事者ではなく、予算も十分にあると言えない中で、どこに予算を使うか、効果的になるかという建設的な意見が議会として求められていることを、全議員が共通認識をもって、柱である総合計画を確認していくべき。議会としての基本であり、出ている意見は引き継いでいき、議員個人、委員会としてどうしていくかを今後考えるべき。

委員長：総合計画の後期計画に向けて、議会としても動き出す年となる。新たな委員会の中で力を発揮する必要がある。総合計画という大きなものへの追跡調査という表現は適切ではないが、町民のためにより良い政策をどう作っていくかという視点で各事業を確認していくことに留めることとしたい。追跡調査はしない。

(異議なし)

黒田委員：一般質問における配置、理事者側も窮屈に見える。今後に向けて協議できれば良い。

委員長：その他の内容は意見として、配置については議運に伝えていく。

(異議なし)

委員長：決定として議運に提出する。

委員長：以上で調査事項「イ 3月定例会議の振り返りについて」を終わります。

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について

正副委員長一任とします。

(2) その他

委員、議長、事務局ともになし。

以上をもって、総務経済常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	0名	議員	0名	合計	0名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和3年4月16日

総務経済常任委員会委員長 正村紀美子